

-Index- 音楽の指導 — 中学編 —

支援学級相談（教育相談）申し込み受付開始  
紙上報告「第11回みみネットアカデミー」



## ♪♪♪ 音楽の指導 — 中学編 — ♪♪♪

みみネット11月号（No.325）及び12月号（No.326）では、本校小学部における音楽の指導について掲載しました。今号では、中学段階での指導について、本校中学部教員（中田）より、ご紹介します。

音楽の授業では、地域の中学校と同じ教科書を使用して、授業を進めています。それに加えて「デジタル教科書」も毎時間活用しています。【音楽】という「目に見えない存在」を、できる限り視覚で捉えることができるような工夫を心がけています。

### 歌唱

デジタル教科書の楽譜を用いて、指文字や手話で歌い進めています。指文字で歌うのはリズムを掴んでほしいからです。

楽譜モードでは小節ごとに色が変わっていくので、「今演奏しているところはココ!!!」と見てわかるところが、とても良いです。

音符の種類を見て、「白い音符は長めだな」とか「4つ繋がっているから速く歌わなくちゃ」など、リズムを意識して歌ってほしいと考えています。…とはいえ、小学校の教科書よりはるかに複雑になっていますので、あまりリズムばかりに捉われ過ぎないようにと心がけています。



歌のテストは、地域の中学校とは大きく違います。聴覚障がいがある場合、大抵の人は音程が取れません。中には素晴らしい音程で歌う生徒もいますが、本当に稀です。全員同じ課題で歌のテストをする場合は、リズムや強弱について評価をしています。拍子の指揮をしながら歌わせるということもあります。

最近実施した歌のテストは、あらゆるジャンルの中から自分の好きな曲の動画を探し、それを見ながら一緒に歌うというものでした。お気に入りの1曲は大人になっても口ずさめる曲であってほしいと思っています。



他には、好きな歌の歌詞に自分で手話表現をつけ、自分自身を動画にとってアプリで編集し、字幕をつけて提出するというテストも行いました。歌詞をただ単に手話に置き換えるのではなく、深く読み込んでその情景にあった手話を付けることで（英語で言うところの意識ですね）、アーティストの想いや考えを感じられるようにと、このようなテストを設けました。

恥ずかしがりながら動画を撮影する生徒、プロの手話パフォーマーのように高い完成度で提出する生徒…、「また同じ課題があったら、もうちょっと完成度を上げられると思う!」というような意欲的な声もあり、それぞれに音楽を楽しんでいる様子が見受けられます。

次号では、器楽及び鑑賞の指導について掲載します。また、「英語学習（中学部の取り組み②）」についても、次号にて掲載します。本校中学部での実践が、少しでも参考になれば幸いです。

## 支援学級相談（教育相談） 申し込み受付開始!

本校では、特別支援学級に在籍する児童・生徒に関わる先生方に対して、相談や支援を行う「支援学級相談（教育相談）」を実施しています。

令和5年度の「支援学級相談（教育相談）」の申し込み要項については、2月上旬に校園メール等を通じて各学校へお知らせしています。「支援学級相談」を希望される学校は、希望調査書を、逡送にて本校までご返送ください。

2月24日（金）〆切

- 支援学級相談では、4月に全体説明会を行います。説明会の詳細は、希望調査書を提出された各校へ送付します。
- 年度途中での希望者については、随時ご相談に応じます。

支援学級相談に関する問い合わせは、担当者までお願いします。

大阪府立中央聴覚支援学校  
 特別支援教育コーディネーター 坂谷  
 TEL 06-6761-1419 8:30~12:15/13:00~17:00  
 FAX 06-6762-1800

尚、本校では「通級指導教室」を開設し、通常の学級に在籍する小学校児童・中学校生徒を対象に、きこえやことばに関する指導や相談も行っています。「通級指導教室」については、4月に各学校へご案内させていただきます。

## 支援学級相談および通級指導教室

### 今年度に引き続き、「支援学級相談」および「通級指導教室」を希望される場合

継続で希望される場合も申し込みが必要です。「支援学級相談」については2月上旬、「通級指導教室」については4月に送付する案内をご確認のうえ、お申し込みください。

### 新小学1年生、新中学1年生について

進学先（4月以降の在籍校）からの申し込みとなります。本人・保護者と相談のうえ、現在の在籍校と進学先の学校での情報共有をお願いします。

### 特別支援学級に在籍している児童・生徒について

「通級指導教室」ではなく「支援学級相談」の対象となります。本人・保護者と相談のうえ、「支援学級相談」にお申し込みください。

### ＼Ｑ&Ａ／

きこえているかもしれませんが、発音が不明瞭です。「支援学級相談」や「通級指導教室」の対象になりますか？

本校の「支援学級相談」および「通級指導教室」については、聴覚に障がいのある児童・生徒が対象となります。尚、大阪市内には他校の児童生徒の受け入れ可能な「通級指導教室」が17校（小学校15校・中学校2校/令和4年度）設置されています。本人の実態に合わせて、関係機関との連携を行ってください。

## <概要> 支援学級相談・通級指導教室

	支援学級相談（教育相談）	通級指導教室
対象	<p>○大阪市内と守口市内の小学校・中学校で、<u>特別支援学級</u>に在籍する聴覚に障がいのある児童・生徒の相談を希望される<u>学校</u></p> <p><u>学校（特別支援学級担任）への支援で、児童・生徒への指導のみを実施するものではありません...</u></p>	<p>○大阪市内と守口市内の小学校・中学校の<u>通常の学級</u>に在籍している児童・生徒</p> <p>○聴覚に障がいがあり、きこえ・ことば・発音などに関する指導や、学校生活において支援が必要な<u>児童・生徒</u></p>
指導時間	<p>○相談時間は1時間程度を基本とし、本校への来校支援・在籍校への訪問支援を行います。</p> <p>○回数・形態は調整して決定します。（訪問回数は学期に1回程度/令和4年度）</p>	<p>○在籍校と調整して決定します。</p> <p>○次の時間帯での指導になります。</p> <p>&lt;指導時間帯&gt;</p> <p>①14:00~②15:00~③16:00~ （小中学生とも1回60分程度）</p>
指導内容・その他	<p>○きこえに関する在籍校での配慮事項、発音や言語、きこえに関する学習など、自立活動についての相談を行います。</p> <p>○特別支援学級担任に加え、学級担任にも、教育相談内容の参観と懇談をしていただくことができます。</p> <p>○本校児童・生徒および通級・支援学級相談児童・生徒との交流も行っています。</p>	<p>○発音・発語指導、補聴機器の装用指導と聴覚学習、言語・コミュニケーション指導、きこえに関する学習など、自立活動に関する指導や教科学習の補充を行います。</p> <p>○在籍校への学校訪問を行います。（年1回程度/令和4年度）</p> <p>○本校児童・生徒および通級・支援学級相談児童・生徒との交流も行っています。</p>

支援学級相談はこちらです！

## 紙上報告

# 第11回 みみネット アカデミー

令和5年1月6日(金)に、「第11回みみネットアカデミー」を開催いたしました。参加者のアンケートとともに、研修会の概要を報告します。

### Lesson 1 「きこえにくい乳幼児のコトバ」

講師：本校首席 加藤 弓子(幼稚部)

手話も音声言語も獲得していない段階の子どもたちが、どのようにしてコミュニケーションをとれるようになっていくのか、その道筋についてお話ししました。

- ・知っていることばかりイメージを広げられるようにすることが、大切だと感じました。
- ・恥ずかしながら、聴覚支援教育について何も知らない中、とてもわかりやすくお話いただき、多くの視点をいただけたと思います。
- ・きこえにくい子どもがどうやって言葉に出会い、経験し、覚えていくのかを知ることができました。
- ・小学校の難聴学級の担当をしています。乳幼児からの言葉の獲得が今につながっていると、あらためて感じました。「今知っている言葉からイメージを広げて、新しい言葉を獲得する」という言葉を肝に銘じて、言葉を広げる指導に努めたいと思います。ありがとうございました。
- ・スクリーニング検査での早期発見がとても大切だということ、表情や指差しから言葉の獲得につながっていくのだということが、よく理解できました。
- ・指差しや具体物を用いて話すことの大切さを改めて感じました。子どもたちが過ごしやすい環境になっているのか改めて見直したいです。
- ・子どもの成長に合わせて“見える言葉”を工夫して変化をつけていく必要があるということに気付いた。豊かな言葉を獲得していくために繰り返し施行することが大切であり、それによりどんどん新しい言葉を身につけていくという過程が興味深いと感じた。



### Lesson 2 「初めてのコミュニケーション ～聾の家族の思い～」

講師：本校教諭 中谷 拓詞(中学部)

自らの実体験にもとづき、聴覚支援学校で勤務するようになってから感じたこと、子どもたちの背景や家族の思いについて、お話ししました。



- ・相手の思いを知りたいと思う自分の意識が大切だとよくわかりました。コミュニケーションの手段としての手話の大切さも、あらためて感じました。
- ・聾の家族の方にはしかわからぬ思いや気づきがあると思いました。すべての思いを理解することができなくても、思いを知る大切さ、思いを知ったうえでの関わり方の重要性を感じました。
- ・家族のお話を中心に、具体的にお話をしていたきありがとうございます。手話に出会って会話が増えたり、家族の思いを知ることができたりと、コミュニケーションの大切さを学ぶことができました。
- ・結婚式でのお母さまのお手紙に深いものを感じました。保護者のしんどさを受け入れて寄り添った指導をしていけるようにと思いました。ありがとうございました。
- ・丁寧に接していかなければと、あらためて感じました。一人ひとりの背景を含めてかかわっていかうと思いました。
- ・家族の背景を含めた本人理解に注意を向けることにより、より深い当事者支援が可能になる。聾者やその家族がみんな同じことで悩んでいる、困っているとは限らないため、「知る」「知ろうとする」姿勢が大切になると感じた。
- ・私たちが当たり前と思っていることでも聾の方には伝わっていないこともあるということに、あらためて気づきました。子どもだけでなく、家族に対するサポートも大切であると感じました。
- ・エピソードから、コミュニケーションの困難さが心理的なしんどさにつながることを改めて感じました。
- ・もやもやる気持ちが知ることができてよかったです。新しい目線ができました。

**研修会へのご参加及びアンケートへのご協力、ありがとうございました！**

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森  
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800